

【昨年度の様子】

東海村で働きませんか？

「東海村合同就職説明会・面接会」

村と東海村商工会および原子力人材育成・確保協議会では、村内で仕事を探している方と、村内に事業所を持つ企業とのマッチングイベント「東海村合同就職説明会・面接会」を開催します。

新卒、既卒、転職をお考えの方など、どなたでも参加できます(高校生を除く)ので、この機会にぜひ申し込みください。



日時▼2月25日(木) 午後2時～3時40分

場所▼東海村産業・情報プラザ「アイヴィル」

参加企業▼村内に事業所を持つ企業(13社) ※詳細は村公式ホームページをご覧ください。

参加費▼無料

その他▼▽雇用保険の「求職者活動実績」となり

ます。▽新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、中止となる場合があります。

申し込み▼2月24日(水)までにハローワーク水戸(☎231-6223)へ申し込みください。

問い合わせ▼産業政策課商工担当(☎282-1711 内線1270)

ふるさと歴訪



～自然を探して～

那珂台地の恵みーサツマイモー

東海村をはじめ、ひたちなか市一帯の那珂台地は良質なサツマイモの特産地です。そこには自然豊かな環境と気候から育まれた歴史があります。

那珂台地がサツマイモの特産地となった理由の一つ目は、救荒作物としてサツマイモの栽培が奨励されたことです。

那珂台地は火山灰土である関東ローム層の上にあるため水はけが良く、晴天が続くことから乾いて、夏には干ばつに襲われるなど、農作物の収穫は不安定なものでした。水田が少なく畑作を中心としていた船場村などでは特に影響が大きく、天保11(1840)年の水戸藩の調査によると、船場村の全35戸のうち、11戸が「困窮人」で4戸が「極窮人」でした。そこで食料不足を補うために干ばつに強いサツマイモ栽培が奨励されたのです。

二つ目は、熱帯原産のサツマイモを栽培する工夫があったこととです。

大正10(1921)年茨城県産業調査書を見ると、「植付ノ季節ヲ失スルモノ多キコト」とあります。サツマイモを7月ごろ



【サツマイモ苗床用落ち葉】

た。腐植質の黒ボク土の畑で育てられたサツマイモはおいしく、この地方の特産品となりました。今では、那珂台地で栽培されたサツマイモは、冬季になるとこの地方特有の乾いた北西風や浜風の気候を利用して「ほしいも」に加工され、全国の90パーセント以上の生産額となっています。

「(仮称)歴史と未来の交流館」
展示監修委員

萩谷 信輝

植えたために、生育期間が短く育たなかったのです。そこで考えたのが、この地方に広く植林されていたアカマツの落ち葉を使用しての苗床作りでした。アカマツの落ち葉は油分を多く含み、発酵するとサツマイモの発芽に適した温度である30度ぐらいになります。苗は5月ごろから植えられるようになり、収穫量も多くなりました。

三つ目は、火山灰土の痩せた土壌を腐植質黒ボク土の肥沃な畑にしたことです。

火山灰土は養分が少なく痩せた土壌です。サツマイモがよく育つ肥沃な土壌にするため、平地林のアカマツや雑木林の落ち葉を堆肥として利用し、でんぶんのたまりやすい腐植質の黒ボク土の畑にしてみました。